

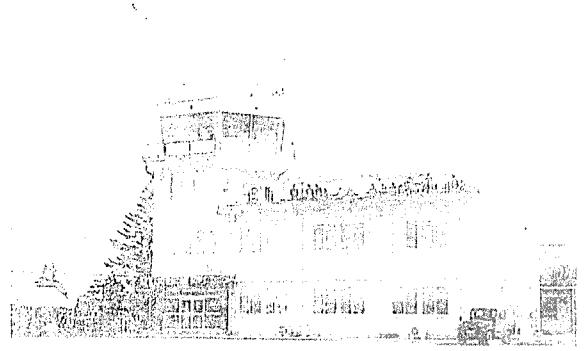
陸自駐屯地紹介シリーズ 第31回

東北方面隊創立記念日
陸上自衛隊霞目駐屯地

駐屯地シリーズ編纂委員会

はじめに

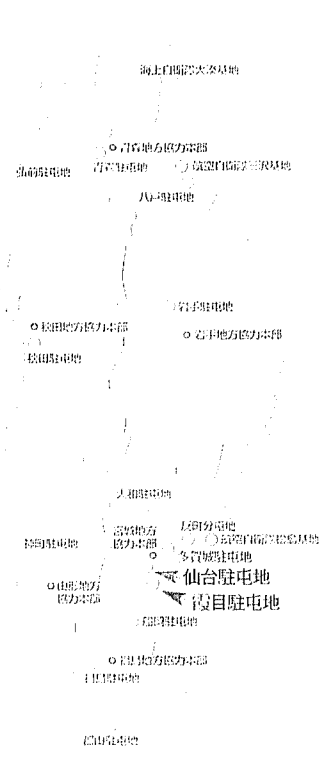
今回の稿のテーマは、陸上自衛隊東北方面総監部他が駐屯する仙台駐屯地とする予定であったが、9月30日に方面隊創立記念行事があると知って、取材対象を変更した。東北方面隊の創立記念観閲式は、仙台駐屯地ではなく回



霞目駐屯地の管制塔

この方面隊は2個の師団と直轄部隊及び機関からなり、東北6県日箇所の駐屯地に駐屯している総勢2万人の部

隊である。かつて北方重視の日々には青函地区守備に腐心した日々があった。そのころはいわゆる後詰め部隊として装備品、隊員充足共に優先させることは少なかったように思う。今、戦車など装備品こそ最新式のものではないが、侵攻様相の多様化に伴い、平安な東北から緊迫した正面への転用に備えなければならぬ部隊として考えられ、期待され始めている。元々東北出身者には優れた資質がある。どのような任務にも黙々と邁進する粘り強さがある。その氣質特性をもって国際貢献や災害派遣にも着実に活動し成果を上げてきたのである。隊区には、比較的積雪の少ない福島県・宮城県と積雪の多い青森県・秋田県・岩手県・山形県があるが、いずれも積雪下での部隊行動力が必要であ



る。東北の都 仙台市
仙台市は東北第一の都市である。幕藩時代に仙台藩62万石伊達家の城下町として賑わい、維新後は東北の中心城市として、幾つもの行政機関の地方局が配置されて繁栄を伝承した。大会社の支社・支店や、地元産業の本社が軒を並べて経済基盤を固め、帝国大学、旧制高校を初めとする教育機関・研究機関も配置され教育文化の水準を高め、現在は人口100万、特別行政区として東北第一の都市として繁栄を誇っている。

じ仙台市内の霞目駐屯地の飛行場で行われる。創立記念日に焦点を当てれば、記述内容が駐屯地シリーズのトーンと異なるのは明白であったが敢えて離れることにした。それだけの魅力を感じたのである。

隊区には、比較的積雪の少ない福島県・宮城県と積雪の多い青森県・秋田県・岩手県・山形県があるが、いずれも積雪下での部隊行動力が必要であ

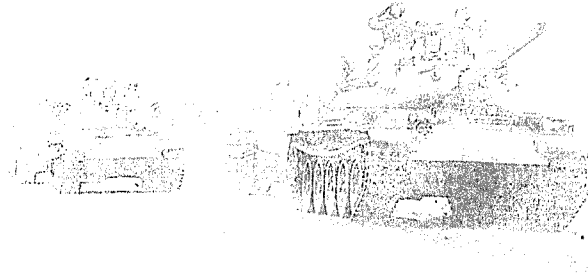
る。東北方面隊が、創隊第47周年を迎え、9月29日、30日に亘って創立記念行事が開催されたのである。行事は、まず29日には仙台市内で音楽フェスティバル、30日には仙台駐屯地から約4km東に離れた霞目駐屯地で観閲式、祝賀会食、装備品展示等のパレードに分かれて行われた。

創隊記念行事
その東北方面隊が、創隊第47周年を迎え、9月29日、30日に亘って創立記念行事が開催されたのである。行事は、まず29日には仙台市内で音楽フェスティバル、30日には仙台駐屯地から約4km東に離れた霞目駐屯地で観閲式、祝賀会食、装備品展示等のパレードに分かれて行われた。

音楽フェスティバル

29日午前中に仙台駐屯地広報班長から電話を受けた。「今日夕方、音楽フェスティバルが在りますが、よろしかったら如何ですか?」この電話でとるものも取り敢えず仙台に向かった。東北新幹線「はやて」で、大宮駅から約75分、次の停車場が仙台駅である。東口から真つ直ぐに東に延びた大

東北方面隊第47周年記念行事



通りを約1kmほど進むと会場の仙台サンプラザがあり、入り口の階段を登り切ると広場に観客が列を成していた。この日、午前中に隊員が見ることに出来る総合予行、午後には招待客対象の第1回目公演が既に終わり、夕刻に抽選応募者対象の第2回目公演が迫っていた。開演が迫るにつれて人々の数が増して広場を埋め、笑いあう声も一段と高く響き、開場時刻を迎えた。

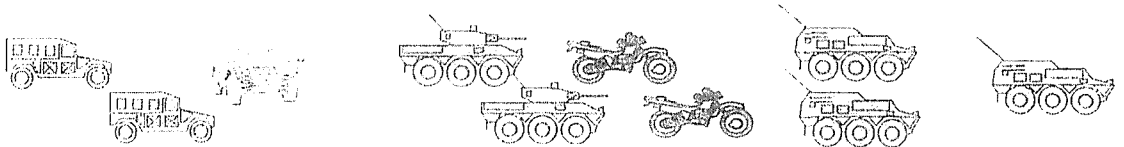
最初は金属性の澄んだ長い音が響くファンファーレと一曲挟んで奏楽に合わせた国歌斉唱で、場内は一挙にムー

ドが高まった。続いて第6音楽隊、第9音楽隊、東北方面音楽隊、海上自衛隊横須賀音楽隊、航空自衛隊北部航空音楽隊が順番にそれぞれの曲を、そして最後には合同して「タンホイザー序曲」を演奏して演奏技量の高さを披露し、更に滑稽軽妙なコントで笑いを誘い、色彩豊かな祭メドレーと和太鼓で郷土意識の昂揚を図り、フィナーレでは予め歌詞を配布したハレルヤの合唱で観衆の心を一つにし、螢の光行進曲で名残の心の中に締めくくられた。観衆は余韻に浸り続けようとするかの様に、口々に勤務員にお礼の言葉をかけ、出口から駅に向かって歩いていった。その後を歩きながら子供達の声に聞き耳を立ててみた。「かっこいいね」「コントおもしろかった」「様々な感想を母親たちに投げかけていた。駅までの間に数少ないファーストフードレストランがあり、親子連れが次々に入って行った。幼い子供にとって記憶に残るおいしい外食とは食材の質の高さでもなく、際だった料理の腕でもない。どのような時に、誰と、どんな話をしながら食べたかが決定するといふ。この子達は長く心に残る楽しいおいしい食事をしたに違いない。幸せな家族とはこのような時を持てる家族をいうのだろう。東北方面隊はそのお手伝いをしたことになる。

観閲式の朝

翌30日、創立記念行事の中核となる観閲式が行われた。午前10時から開始される観閲式にはその何時間も前、深夜から大わらわの準備がある。この準備の間の隊員諸官のテンションの昂まりは相当なものである。現役時代に戻ってこの緊張感を味わって見ることにした。式典参加部隊は早朝午前4時頃から霞目駐屯地に向けて行進を開始すると推察した。その到着時刻は行進表により細かく決められているらしい。その様子を述べれば叙情ある記事が書ける筈と思ひ、午前5時にホテルを出て、途中仙台駐屯地から霞目駐屯地を結ぶ道路に向かい、部隊の行進縦隊を追いように行進経路に沿って徒歩で進んだ。初めての道を迷いながらも行進経路に出て午前7時には霞目駐屯地近くの市道に出た。そこで見た行進部隊は陣容に満ちていた。迷彩服に身を固めた操縦者と車長のキリリとした表情を見続けると、筆者も体の底から昂まるのを感じた。開場前の正門前に立って、準備の最終仕上げをしている隊員の姿を見続けた。通行統制、保安点検、最終清掃や展覧準備等、実に多くの隊員が立ち働いており、その表情には緊張感が漲っていた。

仙台駐屯地広報班長に案内されて、開場前の展示開場などを見て回って



3 第20普通科連隊
指揮官：1等陸佐 安田孝仁 (青森県)
装 備：軽装甲機動車
高機動車

2 第6偵察隊
指揮官：2等陸佐 小林敦彦 (北海道)
装 備：指揮通信車
オートバイ

1 観閲部隊指揮官
指揮官：陸将補 佐藤秀樹 (福島県)
装 備：指揮通信車



る間、突然花火が上がった。聞いていた所では、8時に観閲飛行可否について決心することになっているとの事であったが、雲の状態はそれほど良くはないが飛行可能の決心となったのである。この日の雲の状況では決心は慎重になったに違いあるまい。

観閲式

観閲式は次の式次第で実施された。

観閲部隊入場

資料に依れば勢力は東北管内から集結した人員1千49名、戦車13両、火砲8門を含む車両178両、航空機29機であった。

観閲部隊指揮官入場

観閲部隊指揮官第6師団副師団長・佐藤秀樹陸将補が4名の幕僚を従え車両で入場した。

観閲部隊指揮官に敬礼

感謝状贈呈者の紹介

式の前日、隊務遂行に協力頂いた方々に対し、東北方面総監は感謝状を贈呈した。この方々を観閲台上で紹介した。

観閲官臨場

観閲官入場・登壇

開会の辞

観閲官に敬礼

国旗入場・国旗に敬礼

旗手に捧持された国旗が着剣武装の2名の護衛と共に車両で入場し、壇上に登壇、観閲部隊は着剣捧げ銃の敬礼を、求場者は国旗に正対した。

巡閲

観閲官は車両に乗り整列した各部隊を巡閲、敬礼を受ける。近年陪閲の車両が多く連なるのを見ることがあるが、観閲官の車両一両のみと言うのは指揮の尊厳の観点から実にすっきりした感じがした。

式辞

観閲官の式辞が単切に述べられた。観閲官宗像陸将は管内福島県の出身であるが、故郷で顕職についた名誉よりも、重責を全うしようとする身体一杯

の使命感を感じることが出来た。式辞では東北方面隊の行動の歴史を語り、現下の国内外情勢と自衛隊の責務重大なることを披瀝し、各級指揮官に対し力を尽くしての統率を要求し、隊員に対しては士気高らかに日々の精進を呼びかけていた。

来賓祝辞

祝辞を述べたのは村井宮城県知事であった。横から眺めた姿が実に若々しい。知事は、元自衛官で、東北方面ヘリコプター隊のパイロットであった。若い日に、この観閲式場の霞目飛行場から飛び立ち、宮城県を始めとして東北の空を飛び回った人物である。加えて現在の東北方面航空隊長齋藤一佐とは、防衛大学校同期生と聞いた。空中勤務者の団結は、一種独特のものがある。

知事「同期よ 何かあれば 頼むぞ」

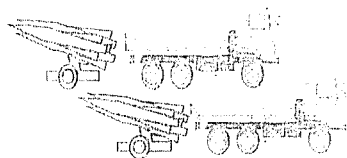
航空隊長「同期よ 県民のため力を尽くしてくれ まさかの時は支えるぞ」こんなシーンがあったことと思う。祝辞には地震発生があれば、全力で助けたいとのべられていた。

来賓紹介

招待された国会議員数人が紹介された。

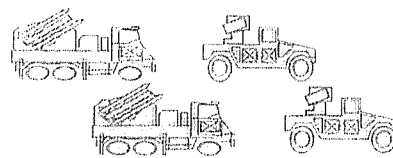
空挺降下

ヘリコプターから3人の空挺隊員が方形傘で観閲官前に降下した。降下後



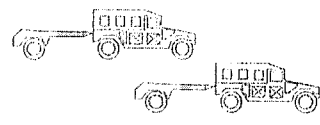
6 第5高射特科隊

指揮官：1等陸佐 皇指 隆 (埼玉県)
装 備：地对空誘導弾



5 第6高射特科大隊

指揮官：2等陸佐 岡村浩幸 (青森県)
装 備：近距離地对空誘導弾



4 第38普通科連隊

指揮官：1等陸佐 川口恒美 (大分県)
装 備：軽装甲機動車
81mm迫撃砲
120mm迫撃砲

敬礼した隊員に対して答礼した方面総監の「有り難う」とつぶやく声がマイクから漏れ式場に流れた。

東北6県旗紹介

東北各県には県旗がある。それぞれの県旗を隊員が捧持し、一台つつ車両で観閲台前を通過した。

観閲行進・観閲飛行

この観閲行進では、先頭の音楽隊を除き徒步行進部隊はない。まず観閲部隊指揮官と幕僚が3台の指揮通信車で通過した。約30kmの速度で観閲台前を通過する指揮官の姿には徒步行進時代の筆者には凄みさえ感じられた。以後の車列は各員下段でご覧頂く。

また手元資料によれば、参加部隊の指揮官に管内出身者が多いことが記されている。列挙したい。

- 観閲部隊指揮官 佐藤将補 福島
- 第20普通科連隊 安田1佐 青森
- 第6高射特科大隊 岡村2佐 青森
- 第6化学防護隊 渡邊2佐 福島
- 施設直接支援大隊 鈴木2佐 宮城
- 第2特科群 速水1佐 秋田
- 観閲飛行部隊指揮官 斎藤1佐 宮城
- 第9飛行隊指揮官 高橋2佐 宮城
- 海自第2航空群 根地戸3佐 青森
- 参加部隊指揮官 24名中9名が東北管内出身であった。故郷で部隊の指揮を執り観閲式で行進する胸中の誉れをいろいろ想像した。

とりわけ筆者の想像が駆けめぐったのは観閲飛行部隊指揮官以下が上空を通過した時である。観閲飛行部隊指揮官は、東北方面航空隊長 齋藤1佐であり、宮城県出身で、県立仙台第三高等学校卒と聞いた。部隊を率いて母校の上を飛行することは、何よりの晴れ姿で、古い表現で恐縮であるが男冥利に尽きることはあるまいか。

国旗退場・閉式の辞・訓練展示

閉式と同時に訓練展示に移行した。地震発生から最初の航空偵察、映像伝送、地上偵察部隊の推進、人命救助部隊の空中機動と救出行動、給水・給食・入浴・宿泊等の民政支援活動を過程を追って展示したものであり、元自衛官の筆者にも目を見張るところがあった。多くの人々が観覧席から離れず観覧していた。

祝賀会食

祝賀会食は自衛隊を支持し協力して頂いている方々が、自衛隊創立の日をお祝いして下さり、一方自衛隊側は答えてこれらの方々にお礼の心を表すと言う意味がある。その意味からすれば会食の狙いとする所作は訓練展示中から始まっていたようだ。会食場となる航空機格納庫に繋がる経路上、様々な交歓がなされていた。久しぶりの再会に声を挙げ両手で握手する者、名刺を交換する者、歩みは遅々として進まず、

漸く開場の入り口に立った時は、会食開始の時刻を過ぎていた。入り口から中を覗くと、格納庫内一杯に配置された各テーブルの上には数百名分の料理と飲み物が並べられており、既に席についている人々は入り口に現れる「大きな花輪をつけた人」の方を見ていた。突然人垣が崩れると同時に声が上がった。「さとうさーん おめでとーうー」

遠い人は、声を張り上げ、近い人は駆け寄って握手を求めて周りに群がった。云うまでもなく、我々の代表として立候補し、初当選した佐藤 止久 参議院議員である。議員の方は笑みをたたえて差し出された手を握り、或いは勤務員として控えている若い隊員には自分でも歩み寄り手を差し出していた。その小さな混乱はしばらく続いた。幸運なことに筆者も握手をしてもらった一人である。傍を通った議員にお祝いの声をかけたところ、議員の方から歩み寄ってきて手を差し出してくれた。私と同じテーブルの婦人が後を追いかけたのを覚えている。

会食挨拶

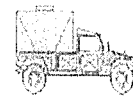
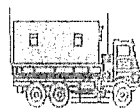
会食にはながい挨拶が次々と続きがちであるが、ここでは主催者として方面総監、共催者として仙台商工会議所会頭の心の籠もったスマートな挨拶があった。場内の私語が静まりかえって謹聴した言葉があった。



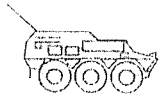
6 東北方面南自衛隊
指揮官：1等陸佐 森崎善久 (埼玉県)
装 備：野外手術ユニット
11/2t 救急車



8 東北方面通信群
指揮官：1等陸佐 片岡博信 (高知県)
装 備：搬送端局車
映像伝送装置



7 第6化学防護隊
指揮官：2等陸佐 渡邊 勲 (福島県)
装 備：化学防護車
除染車



「記念行事には表に立った者の他に、様々な場面で陰に支えた者達が多い。今日の料理も隊員達が徹夜で作り上げた物、その全裏方の代表としてここに料理を徹夜で作った者を紹介致します」大筋この様な言葉で7名を壇上に引き寄せて総監自ら拍手を贈った。こゝで声が上がった。「いいね」「素晴らしい」「細やかだね」、会場一杯に暖かい空気が流れた。

出席の国会議員全員からも挨拶があった。その中でやはり佐藤正久参議院議員の挨拶には一段と高い拍手があった。無理もあるまい。ほとんどの出席者が自分たちの代表と見ているのである。

異色の乾杯

この種パーティーでスピーチが続くと待ち望まれるのは乾杯の音頭である。目の前に隊員方が丹精を込めた種類の多いオードブルが並び、水滴一杯の冷えたビール瓶が並び、名物芋煮の味噌の香りが流れ、鏡割りを終えた燗や孟宗竹に詰められた日本酒のふくよかな香りが漂う中ではどんな謹厳な者でも、喉が渴き胃袋が鳴るのであろう。待ち焦がれた乾杯の時期がきた。乾杯の挨拶に度肝を抜かれ当初眉をひそめた。「仙台部隊の広報班の××2曹で

す。働きが悪いので昇任させてもらえませんか。陳情しているのですが、云々：中略：乾杯」笑っている周りの人々に聞くと間髪をいれず答えが返ってきた。「あれは梅原仙台市長」これには驚き、続いて笑い出した。筆者が在籍した昭和52年頃はいわゆる革新政党的市長で、市長が自衛隊に現れるニユー等聞いたことも無かったことを思い、時の流れ、自衛隊を取り巻く情勢が変わった事を感じたものである。

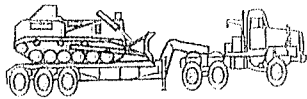
この日のために 会食の賑わいの中で、ふと想像したことがあった。昨日からの音楽フェスティバル、観閲式、武器等展示、記念会食等一連の行事のためになされた準備についてである。承知するところで、準備は昨年第四半期に今年度業務運営計画作成開始の時期に始まったはずである。方面総監部総務部が作成する業務予定表の中で記念式典の日程が組まれ、音楽フェスティバルについては会場手配、出演単位の選定、曲目

一人の顔見知りか知人らしい人と語りあっている所に出会い、黙礼を送ったが筆者が偕行記事を執筆していることをご承知であつたらしい。筆者を話し相手に紹介してくれた。宮城県護国神社宮司山中光彦氏である。神社には英霊顕彰館があり、その入り口から最初の場所に軍旗(複製)が掲げられて、歩兵第四聯隊の昔話が語りつがれていると云うこと、また仙台の南の岩沼市では高校生全国銃剣道大会を開催していることを誇らしげに語っておられた。さらに宮城県内の市町村で議員として活躍している自衛隊出身者の親睦団体もあり、その他自衛隊に協力する組織はいくつもあるとのこと、有り難いことで、同志の方々の方々の発展を祈った次第である。

演目の検討、観閲式会場準備については、広い飛行場の草刈り、観閲台・観覧席の構築、滑走路使用停止の航空情報手続等々に総監、幕僚長による会場点検、観閲行進については部隊ごとの訓練、指揮官実設訓練、隊員実設訓練、総合予行訓練の順を追い、会食については献立・会場配置・招待者の検討、等が検討された記念行事の総合運営については、NIM(兵棋演習)、等の順を追って準備が成されたに違いない。想像はあれやこれやと駆けめぐり止まることが無かった。総監を始め隊員一人一人に至るまで膨大な量の流した汗と絞りこまれた知恵の成果がこの両日の記念行事となったに違いない。

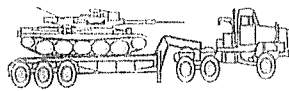
想像を巡らす内に一つの標語を思い出した。音楽フェスティバル会場に掲げられてあつた「とどけ 熱き想い み

み



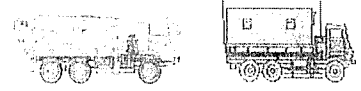
12 第四師団の掘削機

指揮官：1等陸佐 石橋善郎 (長崎県)
 装 備：大型ドーザー
 特大型ミトラ



11 東北方面師団送隊

指揮官：1等陸佐 小田修身 (山口県)
 装 備：7トトラック
 特大型ミトラ



10 施設隊連隊長大隊

指揮官：2等陸佐 鈴木勝之 (宮城県)
 装 備：機械工作車
 軽・重レッカー

ちのくの大地へ」のフレーズである。東北方面隊全隊員が国・郷土の防衛や災害派遣に全力を尽くすと云う決心を隊区に宣言したものと受け取りたい。

感謝を込めて

駐屯地司令宛取材申請を出したところ、思いもかけない早さで回答を頂いた。速達を出した翌々日に駐屯地広報班長から、恐縮するばかりの電話を頂いたのである。それも方面幕僚長の指導を受けての電話とのことであった。

「お出で下さい」

「取材間、私（仙台駐屯地広報班長）が付き添います」

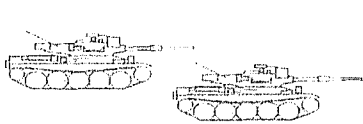
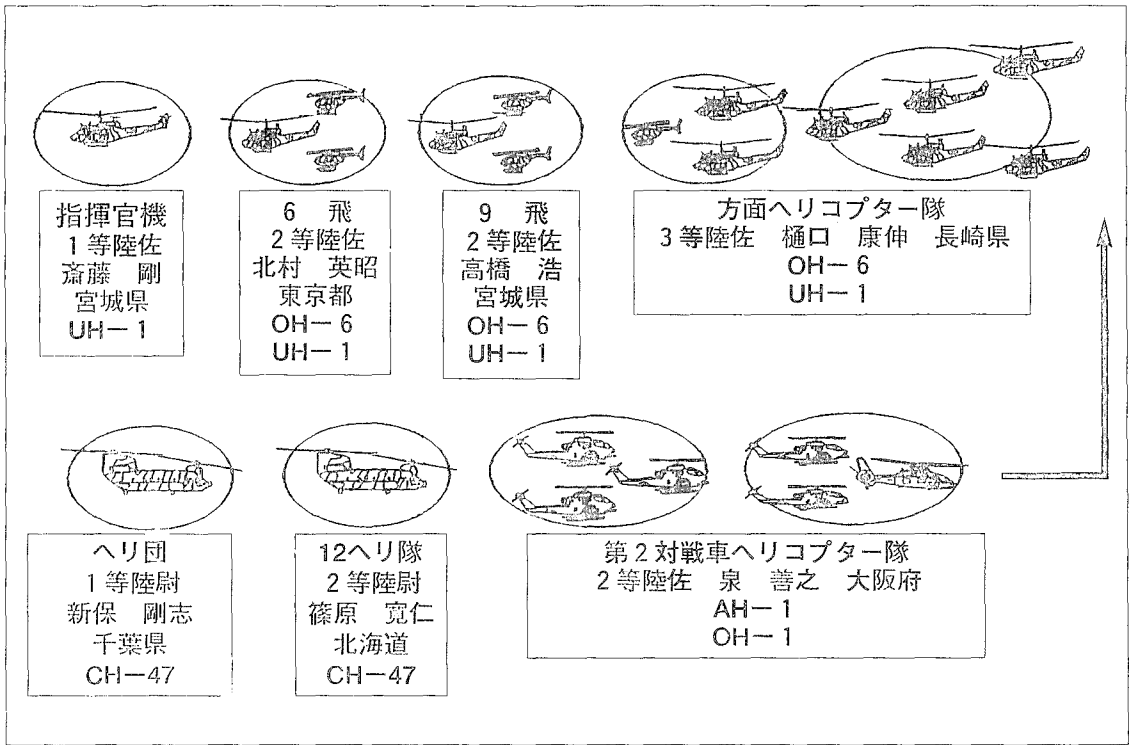
「観閲式の観覧席を用意します」

「時間の余裕があれば祝賀会へもどうぞ」

これらを聞いて身が引き締まる思いがした。記念日当日の忙しい駐屯地広報班長清野2尉をエスコートにつけて頂けることの意味の重さ、幕僚長山本洋陸将補始め総監部のご配慮の大きさに思いが及んだのである。これは先輩編集委員の紹介のお陰の他に、当借行社に寄せる深い理解のなせる所に違いない。心から感謝したい。

文責 松村興延 陸自64

方面記念行事陸自編隊グループ



15 106機甲大隊
指揮官：1等陸佐 森 博史 (愛媛県)
装 備：74式戦車



14 第2特科群
指揮官：1等陸佐 速水健一 (秋田県)
装 備：多連装ロケット



13 第9特科連隊第3大隊
指揮官：2等陸佐 福尾淳一 (東京都)
装 備：特大型トラック
155mm榴弾砲